



魔障羅王像 この王は美出尾のシンホル像で、5つの目を持った美出尾王である。そして、この王は琵琶を奏する音像一体の王で、密教界における映像の王である。以後おもしろおきを

中島興の ビデオソフト学入門 ⑨

◎火的撮影法実践篇第2回

「木・火・土・金・水」という五元素が、宇宙を構成するという古代中国の「五行説」によって、宇宙や人間を考へ、そして「ビデオソフト作り」の方法論を探る「ビデオソフト学入門」。前回から「火的撮影法」——ヒナリオ（火成法）実践術について考察しているが、今回はその第2回目。
自由撮り——「ビデオメニュー」による撮影法について考察してみたい。

前回に続いてヒナリオ（火成法）の火術を密伝しよう。ヒナリオとは、レーザーディスク流には「ランダム・アクセス」のことを言う。「ランダム・アクセス」とは、ランダムにアクセスして組み立て、そしてまたそれをこわして楽しむ、つまりめっちゃくちゃと言う意味がある。ヒナリオ

はまさにランダム・アクセスが基本の哲学である。
日本のビデオ作品を作ろうとする時、そこにカッツウ屋さんと言われる人々の映画屋精神の手法を取り入れると、できあがった作品はほとんどカッツウ屋的になってしまい、また、テレビ屋さんの使い古しのセ

ンタージュ手法などを使うと、これまたどこかで見たようなテレビタチになってしまう。ヒナリオ法は、一語で言ってしまうとこうしかいっさいの概念から離れ、自由に自分流に撮る、自由撮りを意味しているのである。

ヒナリオ実践術③

ノーファインダー、 撮影者不在のヒナリオ的自由撮り

自由撮りとは、自由に無手段で撮ることであるから、まず初めに公園にビデオと三脚を持って出かける。もちろんバッテリーは、2時間か、4時間分ぐらい持って行かなければならない。バッテリーのない人は、公園のトイレなどから長めのACコードをひき、電力会社の電源を拝借すればベストである。

まず三脚を立て、三脚が動かないように地面にクイを打ち、三脚をガッチリ固定。次に三脚の上にカメラをのせる。

デッキはフロッシキかバッグに入れて三脚にぶらさげておく。そしてデッキとカメラのスイッチを入れて、そのままそこを立ち去る。立ち去るといっても、遠くから時折、カメラと三脚を見張っておく必要がある。

ポイントはフープがなくなるか、バッテリーがなくなるまで、撮り手は現場に近づかないこと。そうすればこの自由撮りはうまくいくのである。ズーム、露出、音声などをオートマチックにした最近のビデオカメラは、それ自体が頭脳を持っているので、撮影者不在でもけっこうある情況を撮り得る脳力を持っているのである。なまじ撮影者が介入すると、自然撮りはそこなわれてしまう。

こうやって撮って来たテープをゆっくりとした気分で巻きもどし、コーヒーでもすすりながら觀賞するのは、実はおもしろいものである。撮影者不在の現実でも、画面には生き生きとした画を映るはずである。



ヒナリオ撮り「かくし撮り」実例
ワゴンにカメラをすえて、かくし撮り。もちろんノーファインダー。VTRはワゴンに積むと、画像がゆれるのでデッキは背にかけるとコツ。ベータなどのカメラタイプはチョット無理。セパレート型のほうがこれには向いている

ヒナリオ実践術④

撮影テーマを持たない人のための 「ビデオメニュー」によるヒナリオ的自由撮り

レストランやスナックには、必ずメニューがある。そのメニューを見ながら何をたべるかを決めるわけであるが、もしレストランにメニューがなかったら、私達はとまどってしまうにちがいない。メニューはレストランにおけるひとつの言語(共通語)だからである。それと同様、ビデオカメラを持っていても何を撮っているかわからない人のために、つまり言語を持たない人のために、次のビデオメニューを紹介しよう。これを参考に、ヒナリオ自由撮りを実戦してもらいたい。もちろんメニューは自分で作製したほうがベストであるが、今回は筆者が用意してみた。

- おふろ屋拝見
- タッパウエア
- 電話帳

- 変身願望
- ビデオリレー
- 真夜中の公園

あまり豪華メニューではないが、この6つのメニューをひとつずつ紙に書き、箱に入れよう。そして友人達を集め、ひとりずつ「おみくじ」を引くようにメニューを引いてもらう。

「おふろ屋拝見」が当たった人は、すぐさまビデオに20分のテープと20分ぶんのバッテリーをつめて、おふろ屋に急いで行ってもらう。カメラとデッキが2台用意できて、女性が仲間にいるチームは、男湯と女湯に同時にでかけるとおもしろさも一段と高まるわけだ。

撮影はおふろ屋の前でスタートする。20分しかバッテリーがもたない

ので、20分間勝負である。もちろんカメラやデッキは、バスタオルなどであるみ、カムフラージュしておくことが必要だ。さらにノーファイナダーで撮影するわけであるから、湯屋のノレンをあけて湯ゼニを払ったら、一番大きな鏡のほうにビデオカメラのレンズを向ける、そして自分はさっさと湯船に入り、15分もたつたところで湯から上がり、おもむろにおふろ屋から出て来ればこのメニューは完了するわけだ。この「おふろ屋拝見」メニューの最大の特徴は言うまでもなく、鏡に写し出される15分間の映像美である。実にリラックスした「自然美」が生き生きとヒナリオティック精神(自由撮り)を包括しているのである。もちろん女湯も同様の精神で撮影し、2台のデ



1973年頃、行なったビデオメニュー「おふろ屋拝見」



㉖：ビデオメニューを実行しているビデオアースの大谷君（東京展にて。上野美術館）、くじを引いている観客。1973年頃



㉗：妊娠願望のメニューを実行するビデオアース名占屋の木村君（東京展にて）



㉘：当たったメニューを実行する観客のひとり。参加してやってみるとなかなかおもしろい。あとでゆっくりテープをフィードバックして見る気分はヒナリオ（火成法）ならではの味わいだ

ツッキーに2台のモニターテレビで同時に上映すると、なんともヒナリオならではのビデオ精神が彷彿と伝わってくるはずである。

「タッパウエア」が当たった人は、次のようなことを実行する。

初めにデパートや雑貨屋からポリエステル製の、水が絶対に浸入しないタッパウエアを買ってくる。大きさはベータかVHSテープがおさまる程度であればいい。次に1本のビデオテープに自分のメッセージを入れたり、家族を撮ったりする。そして最後にこのテープを拾って見てくれた人は、連絡をくださいと、英語と日本語でスーパータイトルを入れておく。それからこのテープをタッパに入れて、まわりをビニール用ボンドで固定し、ビニール袋に入れ、水が浸入しないようにする。さらにハダな蛍光ビニール紙でパッケージし、袋がめだつようにする。これをビニールのヒモでむすび、海か川に流すために出かけるわけだが、川の近くに住んでいる人は、橋の中心からこのテープを投げ捨てる。海の近くの人には、漁船でこれから遠洋航海する船員にこのテープをたくして、太平洋の真ん中あたりで投げ捨ててもらおう頼めばベストである。あとはただひたすら返事のくるのを待てばいいだけだ。1年ぐらいは気長に待とう。返事が来たら、そこから読者のヒナリオビデオはスタートするわけである。

「電話帳」このメニューが当たった人は、電話帳から、自分の名前と同姓同名の人を探す。次にその人にビデオレターを送るわけだが、まずは自分を紹介する「自己紹介のメッセージテープ」を撮る。自分のメッセージテープの作りはシンプルなほうが良い。カメラの前に立ち、自分の経歴や考え、趣味、家族やペットなどの紹介をする。最後にあなたもこのテープの後に自分のメッセージを入れて送り返して下さいとつけ加えれば、ベストである。同姓同名に対して、日本人は親近感を感じる人が多いようなので、「運」がよければ返送されてくるはずだ。もしテープ

が返送されてきたら、再度電話帳を引き、次なる同姓同名の人にこのテープを送れば、テープは一段とおもしろくなっていくはずだ。次から次へと同姓同名の自己メッセージが増加し、人数が増えていけば、「電話帳」メニューは大成功である。

「変身願望」このメニューを引いてしまった人は、変身をしなければいけない。変身(心)してみたいと思うのは人間の本能である。特に男の子がメイクをして女になってみたいと思うのは、さしてアブノーマルな精神状態ではない。男が女になりたい、女が男になりたいと言うことは、人間が本来持っている本能で、むしろ男性のほうがメイキャップをしてみたいと言う願望が強いかもしれない。例えばアフリカの土人。アフリカでは男のほうがメイキャップするのである。そこで読者もカメラを目の前にすえ、メイキャップをしてみたいのである。

自分でメイクのできない人は、女友達かお母さん、お姉さんにヘルプ



①: 観客のひとりが「まんじゅう50個たべる」というくじを当て、世紀のまんじゅう早食いメニューに挑戦しているところ。食べている人も撮っている人も楽しいのがヒナリオ法。見る人はさっぱり「まんじゅうパフォーマンス」。もともとビデオは参加してエンジョイするメディアなのだ(東京展にて。東京都上野美術館)。火は燃えこそ火であって、灰になっただけの灰にすぎない。参加して実行する。これが火的人間の火成法なのだ

してもらえばいい。もちろんメイクするプロセスが、すこぶるヒナリオ的であるから、最初から最後まで撮影してもらいたい。マスカラやアイシャドウなどもきちんとしてあげようが、変身の醍醐味がでてくる。素顔

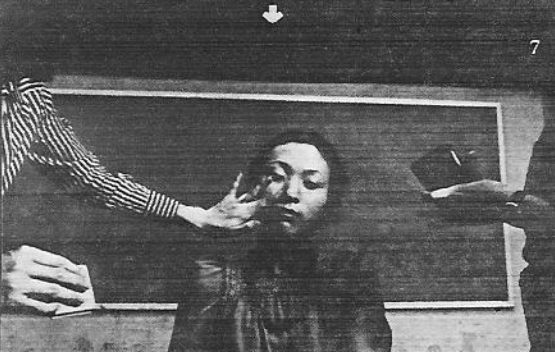
から徐々に変身していくプロセスは、ナルシズムを刺激して、実に摩訶不思議な精神状態を創り出す。一度体験して撮影したテープを残しておけば、10年後にはこのテープは、稀少価値になる。

ビデオメニュー「変身願望」

今回写真で紹介するのは「変身願望」のメニュー、他に「おふろ屋拝見」「タツパウエアー」「電話帳」などがあつたのですが、紹介できないのが残念。おもしろメニューを作って実行してみるのもヒナリオ習得法のトレーニング。



①: フラジャーもタイツもパンツもすべて女性もの、下着も女性ものをつけないと本当の女性になりきれないのだ
②・③: サーツ、すべて「女になるか」とはりきって自分のTシャツを脱ぐ松長君



④・⑤：毛は女の命ヨ!!とカールを始める。なかなか女性っぽくなってきた。女より色っぽくなるのはどういいうれしが、見てる人も、擇ってる人もすべてを忘れる一瞬
⑥：どうみても「女である」、いや男なのだ。だんだんとわからなくなってくところがビデオの楽しさだ
⑦：マツ毛もそってクリームをつけているところ、気持ちよさそうである
⑧：メイクをしているところ、紅がついて顔がハート明くなり、見てる人から「ホーツ」色っボーイと言う言葉が飛んだ
⑨：髪のをカールすると、どうして女っぽくなるのだろうか？ たんだん美しくなってきた



⑩：メイクをしたり、カールをしたり、コスチュームを着たり、ビデオはリアルタイムで変身願望を映像化していく
⑪：オッハイが少々ふくらんで、なかなかの女性になってきた



12
 12: たれか持ってきたのか知らないが、もう女はそのも
 の。これで街を歩こうかと言う話になってきた
 13: チュー!!でもしようかとふさげるのもビデオのおも
 しろさ。ホモほくなっていくシーンである。なかなか名
 場面だ

14: 筆者と松長くん。なんだか摩訶不思議な気持ちであ
 った



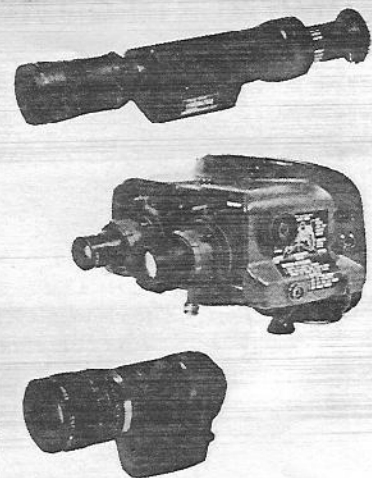
「ビデオ・リレー」このメニューを引いた人はビデオを撮りながら、カメラをリレーするスポーツビデオを実行しなければならない。アマチュアの場合、普通ビデオ撮影はひとりで撮影すると相場がきまってしまうが、このリレービデオはカメラを次から次へとリレーしながら撮りまくるといふ、チームワークを重点においたアクション撮りである。例えば10メートル間隔で撮影者が立ち、最初の撮影者が10メートル空間を撮り終わったら、次の撮影者（ランナー）にビデオとデッキを渡す。あとは同様に次から次へとカメラをリレーしながらビデオ一本撮りを、仕上げるわけである。10メートルが勝負であるから撮影者は10メートルの空間のなかで撮る対象をさがすか、自分でハプニングを挑発しながら歩かなければならない。どんな作品にしようかと考える前に、10メートルの空間のなかで今、自分は何をやらなければいけないのか？ と言うことを歩きながら、走りながら考えることが最大のキーポイントである。このリレーメニューは、歩行者天国などで実行すると効力を発揮する。特にビデオを買ったばかりの初心者には、ビデオスポーツとして楽しめる。

「真夜中の公園」このメニューを引いた人は、幸運である。よく週刊誌

などで、真夜中の公園のカップルを写真で紹介しているが、あのなんともリアリティな真夏の夜の秘めごとをビデオで撮れないものかと言うのは、長い間のビデオ党たちの夢!?!でもあった。ビデオ党のなかでも、特にボルボ党たちが集まれば必ず真夜中の公園の話がもち上がる。スチール写真なら、高感度のフィルムがあるので、真夜中の公園でも撮影できるし、ストロボで一瞬のうちに撮って、撮り逃げすればいいけれど、ビデオでは、こうはいかない。なぜなら、ビデオは時間の芸術だから、どうしても時間をかけないと映像がおもしろくならないのだ。写真のように撮り逃げとはいかないし、ライトをドバッと照らして真夜中の公園を撮って見たところで、アベックに抗議を受けるのが関の山である。いちかばちかライトを照らして撮ったとしても、なんのリアリティもなく、ましてやあの緊迫した生々しいエロチシズムなど、撮れるはずがない。そこで読者は赤外線ビデオカメラを用意しなければいけないわけである。赤外線ビデオカメラは、ソニーが製造しており、他にコーンエレクトロニクスサービス（東京都中央区銀座8-7-5 昌栄ビル5 F ☎(03-572-6552)がレンズを販売している。この両社の監視カメラを使って「真

夜中の公園」をビデオ撮りすれば、真夜中が昼間のように光り輝いて撮れるわけである。なんとも摩訶不思議なエロチシズムを持ったアクチュアルなヒナリオ映像美とは思わないだろうか。

次回もこの続きを書くことにするが、ヒナリオ（火成法）はこれといって撮るスタイルがないので、自分流（無手勝流）の必殺ヒナリオ自分流を開花してもらいたいのである。



軍用品として開発された夜間望遠鏡。光を最高10万倍まで増幅することができる。写真は上より「夜間スコープ普及品221型」(148万円)。ビデオカメラ取り付け可。7万倍。「ゴーグル」(298万円)。双眼鏡タイプで、暗室でも新聞が読める。「ポケットスコープ」(190万円)。携帯用の世界一超小型ミニスコープ

●協力/東京総合写真専門学校